

事業名称	地域をつなぐ伊勢参り再発見プロジェクト		
実行委員会	みえむプロジェクト実行委員会		
中核館	三重県総合博物館		
	住所	〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 3060	
	TEL	059-228-2283	FAX 059-229-8310
	ホームページ	<a href="https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/">https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/</a>	
構成団体	伊勢市情報戦略局文化政策課、旧長谷川治郎兵衛家 旧小津清左衛門家 原田二郎旧宅、多気町教育課、松浦武四郎記念館、三重県総合博物館ミュージアムパートナー		
事業開始時点の課題分析	<p>三重県総合博物館には県の中核館として、調査を通じて三重の歴史・文化の特徴や魅力を発見し、調査に裏付けられた魅力をもとに、地域と共働して、人材育成や地域づくりへの貢献を行うことが求められている。さらに、三重の魅力を広く発信することで県外や世界から三重が注目されることを通じて、長期的視点では観光客の増加に資することも期待されている。</p> <p>本事業では、「伊勢に行きたい 伊勢路が見たい せめて一生に一度でも」と伊勢音頭に唄われる「伊勢参り再発見プロジェクト」を申請の中核に据える。</p> <p>伊勢参りは、江戸時代の庶民に始まり、当時も今も全国から年間数百万人が訪れる。三重県伊勢市に位置する伊勢神宮や周辺地域はその目的地にあり、「東西文化の結節点」として稲の品種交換・伊勢歌舞伎の振興等、様々な形で全国の文化に影響を及ぼしていた。また、かつて徒歩で伊勢参りに向かう街道沿いには、随所に名所や茶店などがあって旅人を楽しませた。</p> <p>そこで、伊勢参りの全体像、また伊勢参りと地元との関連を再発見するプロジェクトを、三重県総合博物館のこれまでのノウハウを生かしつつ、地域の住民や県内各自治体、教育機関、学校などと協働で行うことで、地域博物館として地域社会や学校教育へ貢献するという役割について、具体的事例を当館から発信してゆきたい。</p>		
事業目的	<p>本事業の目的は、伊勢参りの旅を核とした活動を展開し、人材育成、地域づくり、情報発信を通じて、学習を核とした新たな観光のあり方にチャレンジし、社会教育機関たる当館が果たすべき役割を模索し、その成果を発信することである。</p> <p>伊勢参りは、現代においても年間数百万人が訪れるが、訪問地は伊勢神宮周辺に限られ、かつて徒歩で伊勢参りに向かう旅人達を楽しませた、街道沿いの自然、名所旧跡などの魅力は見過ごされ、観光資源としても十分には活用されていない。</p> <p>そこで、伊勢参りの街道沿いにある地域の学校、地域住民と協働し、子ども達が地元の素晴らしさを再発見する機会をつくることで、主体的に学ぶ姿勢と地域への愛着を兼ね備えた、三重の未来を担う人材の育成を目指す。</p> <p>具体的には、「名所」「街道」「旅人」の3つを取り上げ、連携機関の収蔵資料や県内の文化財等を活用した学習活動を実践する。地域住民や県内の教育機関が参画しやすいよう、地域の街道の歴史や名所、名物を取り上げる。また、「旅人」を取り上げることで、地域と外のつながりを考える広い視野の育成にも資する。成果は、広く発信し、地域の文化をじっくりと学ぶ形の観光促進にも資する。</p>		

	<p>新型コロナウイルスによって変化しつつある博物館活動にも対応し、利用者が自宅や学校等からでも自らが暮らす地域の文化に触れることができる環境を整備するとともに、全国に向けても三重県の文化を発信する。</p>
<p>事業概要</p>	<p>(1) 三重県内の教育機関と連携したお伊勢参りの旅に関する教材開発  三重県内の教育機関と連携し、歴史学習が始まる小学6年生を対象に、遊びを通じてお伊勢参りの旅を学ぶ教材の開発を行う。教材は、中核館からの貸出を想定したものに加え、各学校で印刷利用できるようホームページで公開する。  新型コロナウイルスによる影響が長引き、事業(3)が計画通り行かない場合でも本事業の目指す学びを確保する意味もある。</p> <p>(2) 三重県内の名所に関する映像コンテンツの制作  中核館及び連携機関の浮世絵等名所に関する資料の解説動画と、資料に描かれた名所の現在の様子を紹介する映像コンテンツをドローン撮影等も含めて制作し、ホームページで公開する。</p> <p>(3) 街道の町の文化を学ぶ小学生による参加型調査  多気町には、伊勢本街道・和歌山別街道・熊野街道という3つの街道が通っている。街道で栄えた町の文化を、地域の小学生との参加型調査によって調査し、成果を公開する。ソーシャルディスタンスを確保しながらの調査を実現するため、調査カードを配布し、児童が各自で進められる形式とする。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>1. 三重県内の教育機関と連携したお伊勢参りの旅に関する教材開発</p> <p>(1) 遊びを通じてお伊勢参りを学ぶ教材の開発 【事業1】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教材検討会議の開催</li> <li>② 小学校・中学校教員へのアンケート実施</li> <li>③ 先進事例の調査</li> <li>④ 教材の制作</li> </ol> <p>(2) 三重県内の名所に関する映像コンテンツの制作 【事業2】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① コンテンツ検討会議の開催</li> <li>② 所蔵資料撮影</li> <li>③ 三重県内の名所の映像撮影</li> <li>④ 映像コンテンツの制作</li> <li>⑤ 映像の確認・公開</li> </ol> <p>2. 街道の町の文化を調べる小学生による参加型調査 【事業3】</p> <p>(1) 多気町の小学生と調べる自分の町の参加型調査</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 町内各小学校との調整会議</li> <li>② 調査カードを活用した参加型調査の実施</li> <li>③ 調査結果の振り返り</li> </ol>

実施後の  
成果・効果等

本事業では、実行委員会の構成団体との連携により、伊勢参りを「旅人【事業1】」「名所【事業2】」「街道【事業3】」という3つの視点から深め、学習教材の開発や映像コンテンツの製作、地域の児童・生徒による参加型調査を実施することができた。オンラインアンケートや児童・生徒がひとりひとり取り組める調査カード形式などを取り入れ、新型コロナウイルスの感染拡大状況にあっても活動できる方法を模索した。

【事業1】では、伊勢神宮に至るまでの旅のプロセスを楽しみながら学ぶ学習教材として『お伊勢参り道中すごろく（以下、すごろく）』を開発した。より江戸時代の伊勢参りの旅を体験的に学んでもらうものとして、貸出教材として旅姿キットや、三重の偉人・松浦武四郎が伊勢・熊野を歩いた紀行文を旅行記キットとして制作した。

【事業2】では、中核館が収蔵する三重の名所を描いた浮世絵を中心に、資料に描かれた名所の現在の様子を併せて紹介する解説動画を制作した。名所は、伊勢国の入口である桑名・七里の渡しと、古くから歌枕にも詠まれ三重の名所として代表的な二見浦の2か所を選定した。

【事業3】では、伊勢本街道・和歌山別街道・熊野街道という3つの街道が通る多気町内5小学校と連携し、小学生による正月飾りの参加型調査を行った。ソーシャルディスタンスを確保しながらの調査とするため、調査カードを配布し、児童が各自で進められる形式とした。

本事業による成果の一部については、三重県総合博物館移動展示「たんけん！はっけん！多気町」（令和4年2月11日（金・祝）～2月23日（水・祝））の中で展示し、536人に観覧いただいた。会場アンケートでは、「三重の歴史・文化について新たな発見・気づきがあったか」について、90%の方が「あった」と回答しており、「県内在住ですが、知らないことの方が多く文化や歴史について新たな知識を得られました。」「知らないことが多くて「発見」がたくさんありました。」などの声が寄せられ、効果的な事業を実施することができた。

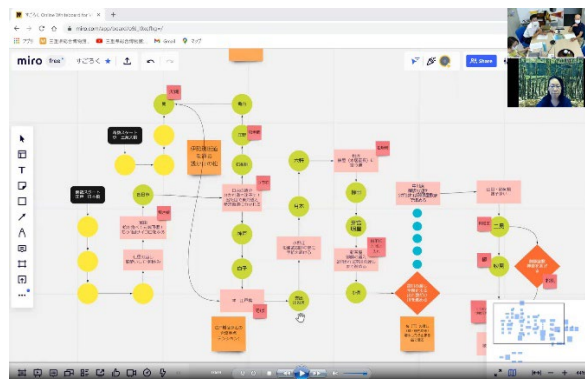
## 【事業実績】

### 【事業1】遊びを通じてお伊勢参りを学ぶ教材の開発

【事業1】では、『伊勢参宮名所図会』を中心に、市町村史に掲載されている連携機関の道中記等資料のほか、平成31年度「多様な個性でつむぐ地域の学び創造事業」で取り組んだワークシート制作に向けた道中記の分析などを活かし、伊勢神宮に至るまでの旅のプロセスを体験的に学ぶ学習教材として『お伊勢参り道中すごろく(以下、すごろく)』を開発した。



『お伊勢参り道中すごろく』



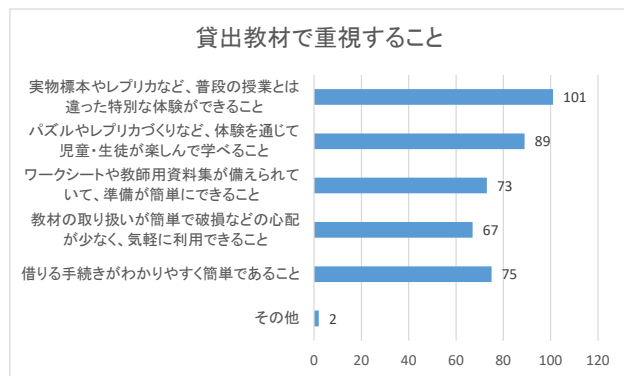
Zoomを活用した打ち合わせの様子

すごろくの検討にあたっては、事前に連携機関の所在する松阪市・伊勢市・多気町に、隣接する明和町を加えた4市町の公立小中学校計93校の教員を対象に、「学校での博物館利用」をテーマにオンラインアンケートを実施し、136件の回答を得た。アンケートで得た意見や要望を、すごろくの内容に取り入れた。アンケートの実施概要は以下の通りである。

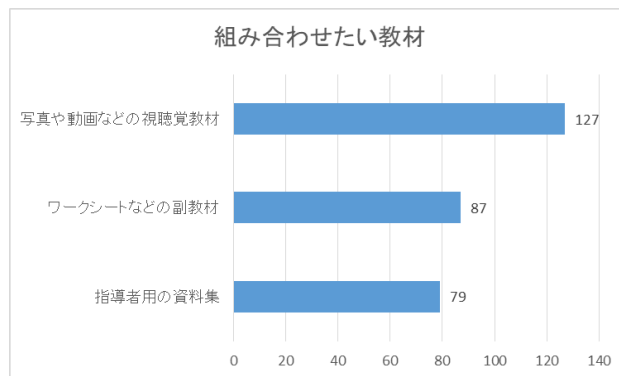
期間:令和3年8月27日(金)～10月29日(金)※開始日は地域ごとに異なる。

対象:松阪市、伊勢市、多気町、明和町の公立小学校・中学校の教員

方法:Google フォームを用いたオンライン回答



「貸出教材で重視すること」



「貸出教材と組み合わせたい教材」

すごろくは、中核館からの学校向け貸出教材キットに加え、ホームページから各自印刷して利用できるダウンロード版を用意した。より江戸時代の伊勢参りの旅を体験的に学んでもらう貸出教材として、菅笠・柄杓を備えた旅姿キットや、三重の偉人・松浦武四郎が伊勢・熊野を歩いた紀行文の複製を旅行記キットとして制作した。旅行記キットの制作にあたっては、連携機関である松浦武四郎記念館の協力を得た。

### 【事業2】三重県内の名所に関する映像コンテンツの制作

【事業2】では、中核館が収蔵する三重の名所を描いた浮世絵を中心に、資料に描かれた名所の現在の様子を併せて紹介する解説動画を制作した。名所は、伊勢国の入口である桑名・七里の渡しと、古くから歌枕にも詠まれ三重の名所として代表的な二見浦の2か所を選定した。【事業1】で実施したオンラインアンケートでは、貸出教材と組み

合わせて使いたいものとして「写真や動画などの資料各教材」が 93.4%と多くを占めており、【事業 1】で制作した貸出教材と併用した活用も今後期待できる。本動画は中核館公式 YouTube チャンネルで公開し、学校のみならず広く一般の方の視聴にも供する。



「桑名・七里の渡し」動画



「二見浦」動画



### 【事業3】街道の町の文化を調べる小学生による参加型調査

【事業3】では、伊勢本街道・和歌山別街道・熊野街道という3つの街道が通る多気町内5小学校と連携し、小学生による正月飾りの参加型調査を行った。今回の調査は、正月飾りの中でも玄関先に飾られるしめ飾りに特化したものである。ソーシャルディスタンスを確保しながらの調査とするため、調査カードを配布し、児童が各自で進められる形式とした。調査概要については以下の通りである。

調査参加者: 多気町内5小学校(相可、佐奈、津田、外城田、勢和)の小学1~6年生

調査時期: 令和3年12月末から令和4年1月(冬休み期間に実施)

調査方法: 各自で調査カードを記入

回答数: 316件(調査カードは375枚回収、兄弟での参加など重複分を整理した)

伊勢市を中心に、三重県内では1年中しめ飾りを飾る風習が残っており、今回の調査でも73%の家で1年中しめ飾りを飾ることが確認できた。しめ飾りは伊勢じめと松阪じめに大別できるが、多気町では伊勢じめが58%と半数以上を占めており、伊勢から街道でつながる文化が今も残っていることがわかった。

調査カード (記入例)



子どもたちのスケッチ